

次期長浜市総合計画の策定に向けた提言

長浜の未来を創るまちづくり市民懇話会

平成 27 年 10 月

1. 長浜の未来を創るまちづくり市民懇話会とは

1.1 懇話会の目的

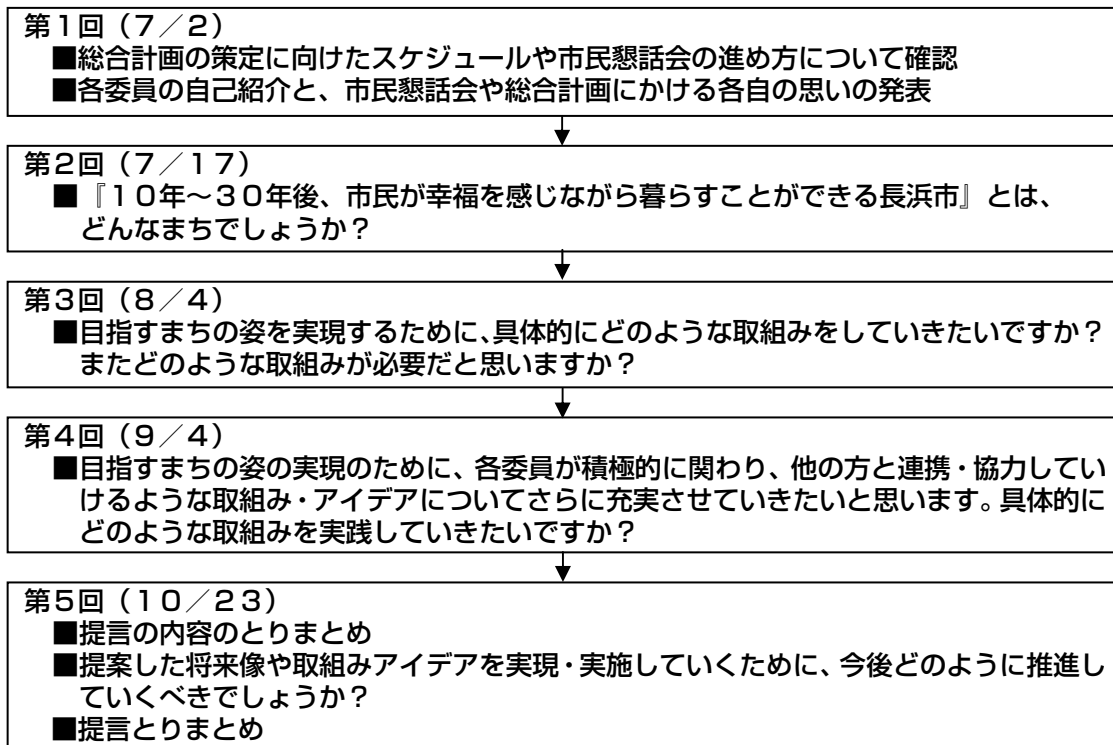
- 懇話会は、次期長浜市総合計画の策定に際して、将来の長浜市の望ましい姿や、その実現のために重要・必要となる視点、また具体的な取り組みや活動について、地域で活動する様々な立場の市民が集まり多様な視点から意見交換を重ねたもので、本提言はその結果を取りまとめたものです。
- 4つの『目指すまちの姿』とともに、市民が主体となり、企業や団体、行政等と協働・連携を行いながら実現に向けて取り組んでいくための方向性とアイデアを整理しました。
- 本提言は、基本構想におけるまちの将来像や、基本計画における施策体系・個別事業の検討過程において、市民目線からの示唆として活用頂けることを期待します。

1.2 懇話会委員

(五十音順・敬称略)

区 分		氏 名	所 属 団 体 等	備 考
1	学識経験を有する者	松島 三兒	長浜バイオ大学	座 長
2	中小企業	居川 安子	菓匠禄兵衛	
3	子育て	川瀬 順子	みんなの居場所 結	
4	歴史・文化・郷土	小西 光代	長浜みーな	
5	社会福祉	下川 並子	ひかり福祉会支援センターそら	
6	大規模事業所	神藤 龍一	ヤンマー(株)、ヤンマーミュージアム	
7	体育・スポーツ	田川 重雄	木之本地域総合型スポーツクラブ	
8	まちづくり・市民活動	竹村 光雄	長浜まちづくり株式会社 長浜生活文化研究所	
9	農業	立見 茂	みたて農園	
10	観光・宿泊	中川 章作	長浜ロイヤルホテル	
11	大学生	西尾 奏	滋賀大学	
12	青少年育成	橋本 孝子	長浜市青少年育成市民会議	
13	北部振興・自然	前川 和彦	ウッディパル余呉	
14	地域医療・健康	松井 善典	浅井東診療所	
15	多文化共生	村山 ジェラルディン	公園町 English Lesson	
16	金融機関	山崎 俊男	長浜信用金庫	
17	大学生	渡邊 諒太	長浜バイオ大学	

1.3 検討の経過



懇話会の様子



2. 目指すまちの姿と取組みの方向性の概要

1. 資源を暮らしに活かすまち

- (1) 自然資源を守る
- (2) 文化資源を受け継ぐ
- (3) 資源を循環する
- (4) 農業を中心とした地元の産業を学ぶ

2. 交流を通じて誇りを持てるまち

- (1) 地域のコミュニティの基盤をつくる
- (2) まちの魅力を発見する
- (3) 他のまちと交流する
- (4) まちの魅力をPRする
- (5) 楽しく移動する

3. 子どもの力を育み、若者が活躍するまち

- (1) 子どもを産み育てやすい環境をつくる
- (2) 子育てを通して、子どもも大人も成長する
- (3) 充実した子どもの教育環境をつくる
- (4) 若者が活躍できる場を創出する

4. 安心して助け合えるまち

- (1) 世代間コミュニケーションを通じた地域の絆をつくる
- (2) 防災対策を充実する
- (3) 支える人材を育てる
- (4) 地域が自立する

3. **長浜市の将来はこんなまちを目指そう**

私たちは、『今から 10～30 年の後、市民が幸福を感じながら暮らすことができる長浜市とは、どんなまちだろうか?』という視点のもと、まちの姿と、その実現のための取組みについて話し合った結果、4 つの『目指すまちの姿』を考えました。

1. 資源を暮らしに活かすまち

- 地域資源を活かし、教育・健康・伝統文化・農・観光といった様々な地域づくりに積極的に取り組み、豊かな自然と上手く共生する環境にやさしいまち
- 農業分野や食分野を基盤とし、またそれらを活かした六次産業化など、多角的な展開と創出に取り組むまち

2. 交流を通じて誇りを持てるまち

- 働く場、交流の場、発信の場、創造の場など、様々な環境があり、あらゆる人にとっての居場所があり、世代を超えてコミュニケーションでき多様な学びの機会があるまち
- 人としての尊厳が大切にされ、人を敬い家族や友人を大切にしながら、みんなが輝け、生きがいや楽しさを感じながら心の優しい人間が育つまち
- 子どもが外で遊び、大人が井戸端会議をしている等、昔ながらの原風景が見られるまち

3. 子どもの力を育み、若者が活躍するまち

- 「子育て」や「女性目線」をキーワードとして、教育が充実し、子ども達が安全・安心に暮らせるまち
- 時代に合ったコミュニティのあり方を考え・受け入れるとともに、20～40 代の若者の感性を活かしたデザインを取り入れ、地域づくりや発信が盛んに行われているまち

4. 安心して助け合えるまち

- 身近な場所の中で、助け合える人たちがいて、教育、医療、福祉や生活支援も充実している、安心・安全に暮らせるまち
- 多様な暮らし方が認め合え、子どもにも高齢者にも役割と居場所があるまち
- 地域で起きた問題は地域で解決することができ、市民が市内で憩うことのできる場があるまち
- 買物・医療・教育などにおいて、市内どこでも同水準で生活できる一方で、たとえ不便であっても、その状況を地域の協力・工夫によって楽しむことができ、賑わいのある住みやすいまち

4. 取組みの方向性と取組みアイデア

4つの『目指すまちの姿』を実現していくために、今後、みんなで取り組んでいくための大事な考え方と、具体的な取組みについてアイデアを出しあいました。

4.1 資源を暮らしに活かすまち

(1) 自然資源を守る

○取組みの考え方

遊びながら自然を体験し学べる場を通して、人と自然との関係について考える機会をつくり、長浜市の自然を保全します。また自然による新エネルギーの利用もめざします。

○実現に向けた取組み

- ・森の学校や田舎暮らし体験など、環境教育・自然体験のプログラムを作り、自然環境を末永く守り、共生していくことについて学ぶことができる場をつくれます。
- ・小水力発電やバイオマス発電など、身近な再生可能エネルギーの普及に努めます。

(2) 文化資源を受け継ぐ

○取組みの考え方

先人から受け継いできたまちの誇り・原風景の豊かさ・人のあたたかさ・歴史・祭・言葉といった市の魅力を、その伝統や背景・由来とともに伝えながら、培ってきた伝統・文化を継承します。魅力の情報は、地域外にも広くPRし、多様な人の参画、幅広い参加を目指します。

○実現に向けた取組み

- ・「戦国の聖地」や「観音の里」といった独自の魅力を核として、市内の魅力のネットワーク化を図ります。
- ・市内に点在する魅力的な人や物、自然などの要素を「長浜国宝」として認定し、市民みんなで育てていきます。
- ・まちの歴史などについての勉強会を開き、地域の魅力を再発見し、「わたしの地域自慢」として、各まちの間で共有を図ります。
- ・様々な情報媒体を活用し、これまで長年蓄積してきた地域のあらゆるデータを「長浜学」として整理し、一層の周知・活用に努めます。

(3) 資源を循環する

○取組みの考え方

日々生み出される様々な「物」を個人で消費するだけでなく、点在する地域の需要を上手く繋げな

がら共有していくことで、限られた資源の有効活用を目指します。

○実現に向けた取組み

- ・身の周りに溢れる様々な「物」を通したコミュニケーションを行うため、資源の循環や有効活用を目指し、市内でのフリーマーケットや物々交換、市場など、シェアリングの仕組みを作ります。
- ・また、技術や物のシェアリングを促進するため、「〇〇ができます」「〇〇をあげます」といった意思表示を行う取組み（スキルカード・シェアカード）を進めます。
- ・古い町家や空き家に、「長浜でこそできる暮らし方」というスタイルの付加価値を付けて、その活用を目指します。
- ・町家ファンドや税負担軽減等の仕組みを活用し、町家景観やまちなみ景観の保全と活用を図ります。

(4) 農業を中心とした地元の産業を学ぶ

○取組みの考え方

一次・二次産業の現状、背景について市民たちが学べる場をつくるとともに、『食』を通して農業の大切さを子どもたちに伝えます。農業への誇りが持てるような雰囲気づくりをするとともに、資源（農作物）の生産だけでなく、生産者が自ら情報を発信できる工夫を進めます。また、生産者が生産から得た利益を地元還元し、人材育成など地域産業の発展に役立てるような仕組みを作ります。

○実現に向けた取組み

- ・特産品をブランド農産物として育て上げ、付加価値の高い農業を目指します。
- ・商業施設等を活用した市民農園を普及させ、市民が手軽に農業と親しむことのできる環境を作ります。
- ・農業の大切さを子ども達に伝えるため、学校での食育活動を進めます。
- ・地域の伝統的な産業や新たな六次産業化の取組みなどを学ぶことができる機会を設け、後継者の育成や産業の発展を図ります。

4.2 交流を通じて誇りを持てるまち

(1) 地域コミュニティの基盤をつくる

○取組みの考え方

地元のつながりをより強くし、多世代の人が集まれるような場で大人から子どもに知恵や経験を伝える機会をつくるとともに、様々な人との出会いの場やイベントの開催を図ります。また、交流の拠点施設を整備し、施設間のネットワーク化を図り、地域全体をつなげるような仕組みとその充実を目指します。

○実現に向けた取組み

- ・市内の空き家を、コミュニティスペースや、多世代が交流できる「趣味の家」などとして活用できる仕組みづくりを進めます。
- ・図書館やカフェ、スポーツ施設など、市民が集まって活動できるような空間の充実を図ります。
- ・様々な分野で活躍する地元出身者との交流機会を設け、将来の夢や地域への愛着を育みます。
- ・ヤンマーミュージアム等の大規模施設を核として、市の魅力情報を発信する拠点化を進めるとともに、様々な分野で活躍する人材のネットワーク化を図ります。

(2) まちの魅力を発見する

○取組みの考え方

様々な地域と交流し、地域外の人から新たなまちの魅力について気付かせてもらえる機会の創出を図ります。また、子ども同士の交流や子ども同士のまち自慢などを通じて、子どもだけでなく大人も新たなまちの姿を見つけられる環境づくりを進めます。

○実現に向けた取組み

- ・市内の各地域から、様々な世代が参加するイベントなどを開催し、地域内外の交流を促進します。

(3) 他のまちと交流する

○取組みの考え方

長浜市の良さや面白さを発信する機会や手段を構築し、ニーズに合わせ市内外にしっかりと伝える仕組みづくりを進めます。また、国内外の人々との交流を通じて様々な異なる文化に楽しみながら触れる機会をつくるとともに、地域間を結びつける仕組みづくりや、外から観光に訪れた人と市民との交流により、転入・居住に結び付けられるような場の創出をめざします。

○実現に向けた取組み

- ・開催されるイベントや活動しているサークル、活躍する人の魅力やまちでの暮らしの様子など、様々な地域情報がわかる総合情報誌やHPづくりを進めます。
- ・市の情報や地域の原風景を転出者に発信し、『ふるさと』として将来また戻りたくなるようにPRを続けるとともに、転入者に対しても、今後、『ふるさと』として感じてもらえるよう、地域への愛着を育む取組みを進めます。
- ・様々な観光ニーズに応じた戦略を策定し、誘客を促進します。

(4) まちの魅力を PR する

○取り組みの考え方

長浜市の魅力を行政だけでなく、市民自らが積極的に市内外や企業に広く伝える仕組みづくりを進めます。

○実現に向けた取り組み

- ・ YouTube などを活用し、学生や在住外国人目線での PR ムービーを配信します。
- ・ いつでも手軽に見ることができる長浜市の総合情報アプリを開発します。
- ・ 市の広報に、地域で活躍する市民目線でのコラムを掲載します。

(5) 楽しく移動する

○取り組みの考え方

公共交通機関などのインフラ整備を進め、生活利便施設や交流拠点施設、観光施設などへのアクセスを確保するなど、訪れる観光客の受け入れ体制を整えます。

○実現に向けた取り組み

- ・ 日常生活や観光で使えるように、長浜駅を拠点としたバスネットワークの再整備を進めるとともに、戦略を作成し、利用促進につなげます。
- ・ ウォーキング環境やレンタサイクル、ツアーガイド等の整備を進め、地域の魅力をゆっくりと発見・味わいながら周遊してもらえるような環境づくりを進めます。
- ・ 特に中心市街地を『歩くまち』として、周遊観光を PR します。

4.3 **子どもの力を育み、若者が活躍するまち**

(1) **子どもを産み育てやすい環境をつくる**

○取組みの考え方

まちの将来を担うのは子どもたちであることを再認識し、子どもを産み育てやすい環境整備を進めます。また、ワーク・ライフ・バランスを推進し、やりがいや充実感を持ちながら仕事と家庭・地域生活が両立できるような環境づくりを進めます。

○実現に向けた取組み

- ・ 保育園の充実や職場環境の見直しを図り、子育てをしやすい・子育てをしながら働きやすい環境づくりを進めます。
- ・ 地域で子どもを見守り、育てる環境づくりを進めます。
- ・ 子育て世代が抱える様々な悩みが共有できる場や、解決していくための相談窓口など、支援の充実を図ります。

(2) **子育てを通して、子どもも大人も成長する**

○取組みの考え方

家族間、地域間のコミュニケーションを促進し、多様な人同士を結びつける場づくりを通して、子どもが主体的に遊びながら様々な価値観に触れ、経験を重ねるとともに、子どもを見守る大人も成長できる環境づくりを図ります。

○実現に向けた取組み

- ・ 冒険、川遊び、自然学校など、様々な遊び場を作り、子どもの感性や能力を養うとともに、市内での遊び場や遊び方情報を整理した遊び場マップなどを通じて情報提供を行い、共有します。
- ・ 大人の子育てスキルを育むとともに、子どもと大人を繋ぐ機会を作るコーディネーターを育成します（寺子屋ネット）。
- ・ 学生等を中心とした若い世代や、知識・経験が豊富な高齢者世代など、地域で活躍する様々な人の情報を集約し、共有します。
- ・ 誰でも参加できるワークショップやイベントを通して、家庭環境の問題などで参加しにくい子どもが一步を踏み出すためのきっかけづくりに取り組みます。

(3) **充実した子どもの教育環境をつくる**

○取組みの考え方

勉強だけでなく、人としての魅力や資質の向上を目的とした教育環境・システムの導入を通して、子どもの個性を伸ばし、自分自身で考え・決めることができる力を育む教育の充実を図り、「長浜で子育てをしたい」と思える教育環境づくりを目指します。

○実現に向けた取組み

- ・ 市民が学校教育と連携・協力し、各々の得意分野を活かした様々な経験を提供します。
- ・ 地域の歴史や地域が持つ資源の魅力を日常的に経験できるプログラムを導入します（長浜学）。

- ・高校生を対象に郷土愛を育む教育に取り組みます。
- ・小中学校へ高校生や大学生を派遣し、勉強・部活・人生経験などを学ぶ学習会を開催します。
- ・放課後児童クラブの充実などを通して、放課後に子どもたちが自由に参加できるような遊び場をつくり、地域で子どもが育つ環境づくりを進めます。
- ・外国語の先進的教育や小中一貫校の充実を目指します。
- ・スクールバスとコミュニティバスが連携し、誰もが通学しやすい環境を目指します。
- ・食育を通じて、親子や家族、仲間や地域との関わりを深め、健やかな心と身体の発達を促進します。

(4) **若者が活躍できる場を創出する**

○取り組みの考え方

時代の移り変わりを受け入れて、雇用を創出し、若者が集まるまちをつくるとともに、集まった若者が活躍し定住できる環境づくりを図ります。

○実現に向けた取り組み

- ・若者が集い、その知識や技術、感覚などを披露・共有しながら互いに学び合うことができるコミュニティスペース、ワーキングスペース作りを進めます。
- ・長浜の地場産業を学べるような、学校でのキッザニアプログラムに取り組み、将来の地元産業の活性化・就職に結びつけます。
- ・地域の特産品など、地場産業の情報提供や体験の機会を通じて、産業の振興・雇用の促進に取り組みます。

4.4 **安心して助け合えるまち**

(1) **世代間コミュニケーションを通じた地域の絆をつくる**

○取り組みの考え方

多様な世代が連携・協力しながら活動することで地域の絆を醸成し、普段から助け合える環境づくりを目指します。

○実現に向けた取り組み

- ・高齢者の知恵や経験を活かして、悩み相談や技（スキル）の継承、子どもの一時預かりなどができる場所を作ります（じーばークラブの広がり）。場所は、空き家の活用を検討します。
- ・地域の祭など、多世代が集まる場への参画を通して、共同体験や役割分担の仕組み、自然の恵みと結びついた地域文化を継承します。
- ・世代を超えて仲間づくりができるスペース（コミュニティキッチンなど）の場作りを進めます。

(2) **防災対策を充実する**

○取り組みの考え方

市民みんなで災害時の避難方法、避難場所を確認し防災対策に努めます。

○実現に向けた取り組み

- ・特に在宅者が少なくなる昼間の時間帯の発災に備えて、昼間在宅する高齢者などの視点や力を活かした防災活動に取り組みます。
- ・安心・安全に関する看板などに、外国人にも理解できるよう様々な外国語表記を追加します。

(3) **支える人材を育てる**

○取り組みの考え方

地域を支える人材のリーダーシップ開発や学習機会の場を提供し、支える側、支えられる側、双方を繋げるためのマーケットづくりを進めます。また、地域で働く医療職・福祉職の育成と確保を図ります。

○実現に向けた取り組み

- ・多様な世代が参加できる楽しいイベントを企画するプロデューサーやコーディネーターの育成を図ります。
- ・将来の生きる力を育むため、小・中・高生などに対し、様々な職業・学問等の情報や体験機会を提供するとともに、必要となる能力や態度を養うプログラムの充実を進めます。

(4) **地域が自立する**

○取り組みの考え方

地域づくりの方向性などを地域自らが考え、取り組んでいく体制づくりを目指します。

○実現に向けた取組み

- ・高齢者の生きがいづくりや子育てのサポートが充実した環境づくりを進めるとともに、地域ごとに取組みをまとめた計画づくり、地域を支える市民の育成や組織づくりを進めます。
- ・高齢者やしょうがい者の公共交通無料化や市営入浴施設の充実など、暮らしやすい環境づくりを目指します。

5. 取組みの方向性と取組みアイデア

提案した将来像や取組みアイデアを実現・実施していくために、必要となる推進体制についてアイデアを出し合いました。

5.1 様々な分野の人と交流・共有する

- ・多様な分野で活躍する人と交流し、私たちの住む市の現状や抱える課題に対する理解を深める『気づきの場』を設けるとともに、懇話会メンバーも取組みの手本となれるよう、積極的に参画することが重要です。

5.2 継続的に集まり、意見交換を行う

- ・具体的に取り組む段階となったとき、懇話会委員を中心として、委員それぞれが持つ幅広い人的ネットワークを活用し、各テーマに対してより深い議論を行っていくことが重要です。
- ・具体的に取り組むにあたっては、当初の目的と市民意識に懸隔が生じないように、調整役を果たすコーディネーターを育成することが重要です。
- ・分野をまたがる横断的な取組みに関しては、より多角的な展開が期待できる反面、実施のためのきっかけづくりや分野間の調整が必要となる場合もあります。必要に応じて、行政の支援を期待します。

5.3 進捗・達成状況をチェックする

- ・提言内容や総合計画の内容が、具体化され、実施されたかどうかについて、継続的に進捗・達成状況のチェックを行い、必要に応じて修正を行っていくことが重要です。懇話会メンバーも今回の気づきを活かし、参画します。
- ・必要に応じて、分科会を複数構成し、個別のテーマに対し、より深い議論・評価を行うことも重要です。